

今月のトピックス

- ・鹿角いいね!キャンペーンで首都圏PR …《鹿角ブランドPR強化事業》
- ・それぞれのブランディング ……《鹿角ブランドアップ戦略レポート》
- ・手塩にかけた「湯上がり娘」・農家のそば屋したかわら …《鹿角ヒト・モノ情報》
- ・「自分、不器用ですから…」 ……《室長コラム》

鹿角いいね! キャンペーン



↑ 漫画家、高橋陽一先生描き下ろしのポスター8月6日から首都圏JR駅に貼り出し

8月6日から鹿角ブランドPR強化事業、鹿角いいね!キャンペーンがスタートしました。この取り組みは、日本サッカー協会(JFA) こころのプロジェクトによる地域を元気にする事業「ご当地ニッポン応援団」の全国第1号として実施されることになりました。8月6日から1週間、首都圏のJR主要5駅にポスターを貼り出し、同時に10月末までWeb上でプレゼントキャンペーンを実施する鹿角市初の取り組みです。ポスターは、鹿角市に縁のある漫画家・高橋陽一氏の描き下ろし、キャプテン翼のキャラクター、立花兄弟のイラストに、JFA最高顧問である川淵三郎氏の出演によるものです。プレゼントの応募は、Webサイトの他、Facebookで受け付けており、合わせて鹿角市の様々な情報をFacebookで日々発信しています。



キャンペーンに先立ち、8月3日には川淵三郎最高顧問の出席のもと、鹿角市とJFAこころのプロジェクトとの合同記者発表を行いました。川淵氏には、観光VIPファンにもなって頂き、「鹿角はPRの話題に困らないすばらしいところ。どんどんPRしていきたい」と川淵最高顧問も事業への意気込みを力強く語ってくださいました。

キャンペーンは、鹿角市内の関係機関・団体など、様々な事業者の方のご協力のもとに実施にこぎつけ、市が一丸となった事業となっています。キャンペーンのこれからについても、どうぞご協力をお願いします。



鹿角ブランドアップ戦略レポート

コミュニティFM プロジェクト

発起人とサポートメンバーの番組編成チームは、3グループに分かれて「教育番組」「音楽番組」「生放送番組」のデモ番組を制作中です。地域の皆さんに聴きたいと思っていただけるような魅力溢れる番組編成に取り組んでいます。また、8月30日(木)に鹿角市を会場に行われる「秋田県総合防災訓練」に鹿角コミュニティFM開局準備チームも参加します。避難所となる鹿角市交流センターにおいて、訓練参加者や見学者の皆さんへ防災情報並びに訓練状況をお伝えする予定です。

桃 花 プロジェクト

去る7月25日、久々となった桃花ワークショップ(WS)を開催しました。12人参加のもと、テーマを「生食ブランドの追求」とし、ブランド戦略の組立ての実践を行いました。続いて8月8日は、テーマを「加工品を追求する」として、新メンバー3人を追加した11人参加のもと、昨年の各メンバーの加工研究等の経験から、桃加工品開発における「香り」の重要性が大きな話題となりました。今年もメンバーの数々が加工に取り組むことから、「香り」を重視した取り組みが期待されるところです。



米 粉 プロジェクト

今回、プロジェクト参加メンバーである山田商店さんがプロジェクトをきっかけに、市ブランドアップ補助金を活用し商品の研究開発(鹿角産餅米及び米粉加工品開発)に取り組むことになり、付加価値の高い商品が開発されることが期待されています。

昨年度から始まった本プロジェクトですが、現在は、食品だけでなく、工業やデザインなど、多彩な業種の方々が参加する広がりのあるプロジェクトとなっており、メンバー同士の繋がりも深まっています。今後もメンバー同士の“繋がり”を大事にしながらも各々が力を発揮しつつ、統一ブランド化に向けて取り組みを進めて行くことにしています。

MADE in 鹿角 モノ情報

鹿角の 枝豆



寒暖の差で甘くなる枝豆

秋田県では平成22年から「えだまめ販売戦略会議」を発足させ、えだまめ日本一を目指しています。この鹿角地域は昼と夜の寒暖の差が非常に大きく、日中、光合成をして得たエネルギーは、夜、気温がぐんと下がることにより、消耗が抑えられ、糖分がどんどん蓄えられる枝豆の栽培に適しております。

鏡田ファームは、代表理事の木村功さんと33戸の農家で組織され、枝豆の栽培に取り組んでおります。主力品種は「湯上り娘」ですが、秋田県農業試験場で作り出した秋田オリジナル品種「あきた香り五葉」や、日本一の品種とも呼ばれる「枝豆の女王」である「秘伝」といった品種も積極的に作付をしております。早生種（8月中旬）の「湯上り娘」から極晩生種（10月中旬）の「秘伝」までを栽培することにより、売り場に長く旬を届けることが出来るという大きな強みがあります。

しかしながら、枝豆の収穫時期までは豆の甘い香りに惹かれてやってくる虫からの食害や病害対策に、一日たりとも気が抜けない厳しい栽培管理を経て枝豆は出荷されます。

ぷっくりとした弾けそうなくらい大きな粒が詰まった甘みのある豆の味は、一度食べると夢中になって次から次へと手を伸ばしてしまうほどです。でも、鹿角産の枝豆はこうした農家の皆さんが、午前4時半から収穫をして、細かな規格毎に選別し、まさに「湯上り娘」を我が子を送り出すかのように出荷しているからこそ、風味豊かな枝豆を賞味・堪能できるのです。枝豆を頬張るとき、太陽と大地のエネルギーを感じてみてはいかがでしょうか。



鏡田の枝豆畑

PEOPLE of 鹿角 ヒト情報

農家のそば屋 したかわら



佐藤真美子さん 佐藤信子さん 佐藤正恵さん
他 佐藤ちせ子さん 佐藤るみ子さん 佐藤信子さん 佐藤美智子さん の計7名

農業従事者の高齢化や担い手不足による労働生産性の低下による耕作放棄地の増加が課題とされています。そのような中「農事組合法人したかわら」が、耕作放棄地をそば畑に再生した取り組みに着手したのは、平成21年のことでした。佐藤組合長のもと、約8haの耕作放棄地の再生作業(刈払、抜根、整地等)、土壌改良(堆肥投入)、営農定着(ソバ栽培)に取り組んできました。昨年度には30haまで作付けを拡大し、かねてからの目標でありました、製粉加工から製麺加工までを可能にした設備を導入し、今年7月14日「農家のそば屋したかわら」として開店いたしました。

ここで特筆すべき点は、鹿角産のそば粉を使ったそばを日常的に提供する施設が市内に無かったことを懸念した佐藤組合長がその問題を解決したことです。そしてもう1点は、生産から加工・店舗の運営までを組合員が試行錯誤しながら取り組んでいる点です。

6次産業化という言葉がもてはやされている今日、ともすれば店構えや上質なサービスの提供に目を奪われてしまいがちですが、この組合は素人ながらもそばを研究し、接客の経験の無い農家のお母さん達が右往左往しながらお客様と接し、今できる範囲の中で最高の接客に努力する姿に、佐藤組合長や厨房に入る佐藤正恵さんたちの思いが一杯のそばに込められています。

一流店では決して味わうことのできない素朴な味わいに満ちた十割そばと、お母さんたちの熱い思いを感じながら蕎麦をすすってみてはいかがでしょうか。きっとあの頃食べたことのあるような、遠い昔が思い出されることでしょう。



素朴ながら贅沢な味わいのそば

ブランドアップ補助金審査会開催！



プレゼンを見守る審査員の方々

8月9日、第2回ブランドアップ補助金審査会が開催されました。今回は、山田商店さんの八幡平のいにしえのお菓子「くるみ餅開発」、児玉精果園さんの「ブルーベリー乾燥品の研究開発」、佐藤秀果園さんの「鹿角産桃の缶詰加工の研究開発」の3件のプレゼンが行われ、全て採択となりました。発表者のアイデアあふれるプレゼンを受けて、審査員の方からも温かいアドバイスが多数寄せられるなど、有意義な審査会となりました。



発表者 児玉精果園 田淵博之さん

つぶやき～コラム～

日本全国、様々なニュースが毎日飛び交っている。その中でも、良いニュースというのは、相当なインパクト(例えば日本初とか)、がなければなかなか取り上げられない。それだけに、特に自治体が行う事業では、如何にマスコミから取り上げられる事業となるかが、事業効果をあらわす一つの目安にもなる傾向がある。

「鹿角ブランド戦略」…自分としては、市民が自分達の街や資源に誇りを持つ取り組みを行うことが重要なのだとは理解しつつも、例外なくマスコミに取り上げてもらいたい…正直そういう気持ちをもっていたのは確かである。しかし、「これはいける」と思っていたものでも、

注目を浴びる事業になれるかは、なかなか難しいものである。そういう意味では、一つの物事に対しての人の評価や想いは、マスコミに限らず、人それぞれだと思う。最近そういう思いをする機会が多かったせいもあるが、少し視点を変えてみることも必要かと思っている。「No.2でだめなんですか?」という言葉が懐かしいが、主役の影になくはならない、名脇役としての地域ブランドという売り方もあるのではと思う。とかく、鹿角人は遠慮深く、人情に厚いと言われるが、そういった地域性をくみ取れば、名脇役の素質も充分あり、こんな戦略もありかなと思う。

「不器用ですから…」こんな鹿角も「いいね!」(プラドール)



ヒト・モノ・ワザ情報
お待ちしております!